

県立大学設立有識者懇談会（第 1 回）での意見の整理

県立大学の必要性・県立大学の理念

【基本構想】

（必要性）

- 高等教育機関の更なる充実
- 本県の発展を担う中核的人材の育成
企業や地域社会のニーズに的確に対応し、日本海側の拠点地域としての発展を担う中核的人材の育成
- 人材育成の一翼を担う大学の設立
県立女子短大が培ってきた教育の伝統と知的財産を活かし、人材育成の主要な一翼を担う礎を築く。

（理念）

- 「国際」「地域」「人間」の各視点から企業・社会が抱える諸問題を幅広く研究し、これらの課題解決を担いうる中核的人材を育成する。

【意見の整理・方向性】

（必要性）

- 大学全入時代を迎え、高等教育機関には特色づけと差別化が必要
- 新潟の地域性やポテンシャルを活かした人材の育成には国際性が不可欠。国際性を持った人材育成が新潟県発展の基礎
全国、海外からの学生の受け入れを充実し、ネットワークを拡大することが重要
- 既存の知的財産を活かすだけでなく、新たな知的財産を付加することが「県立大学設立」の重要なポイント

（理念）

- これから企業、社会の諸問題への対応は、常にグローバルとローカルの両面からの課題解決の視点が必要であり、その核となる人間性（生き方、立ち居振る舞い、相互理解、発想等）の育成を重要な要素とすべき

【第 1 回懇談会での意見】

- ・「国際」「地域」の結合という視点から、新潟はやりやすい位置にある。（吉田委員）
- ・地域もグローバルも両方面倒見られる人材を育成するべき。（猪口委員）
- ・グローバリゼーションとローカリゼーションのバランスの取り方、あるいはそれらの統合。その過程で何をするかを考えていかなければならない。（野中委員）
- ・新潟の国際化に貢献できる形でなければならない。ローカルがしっかりしていて初めて国際化、グローバル化という方向へ行ける。（井田氏）
- ・サイエンスに偏らず、人間の生き方（アート）として、何がやりたいのか。サイエンスとアートの総合を考えていくことも大学の魅力につながる。（野中委員）

学部学科の構成

【基本構想】

- 2 学部 4 学科
 - ・ 国際政策学部（国際政策学科）
 - ・ 人間生活学部（人間科学科・幼児教育学科・食品栄養学科）

【意見の整理・方向性】

（教養・講義の基本）

- 国際性重視の観点から、一定レベルを前提とした英語教育へのシフト
- 人間性重視の観点から、教養教育の重視
- 講義は、両学部とも基本的に英語で実施する課程が必要。特に教養教育は両学部とも英語での実施がポイント
- 海外留学生の受け入れに対応する日本語習得プログラムの構築が必要

（国際政策学部）

- 「過疎化」や「少子高齢化」等、地域（対岸の地域も含む）が抱える様々な問題解決のためには国際的な「人的交流」「貿易」「観光」などの視点も重要。これらの課題を発見し、解決するため、政治学や経済学、国際関係学など幅広い社会科学の分野の横断的な教育・研究の実施。
- 国際性と地域性との融合が必要（国際性をベースとした「地域政策」「経済政策」）
- 特色ある資格取得、能力修得の打ち出しが必要
- 海外留学生の地域が持つ問題の解決にもつながることも重要

（人間生活学部）

- グローバル化のなかで、人間生活学部のこれまでの知的財産に「国際性」を付加
 - ・ 県内や国内だけでなく、国際社会での課題の視点が必要
 - ・ 外国就労者や海外事業展開の中で、マネジメントできるキャリア教育が重要
- 目的意識を持って学習させるため、それを踏まえたカリキュラム編成が必要

【第 1 回懇談会での意見】

- ・ グローバルな人間には教養、ヒューマニティが必要。また、地域研究のようなもの組み込むことも考えてはどうか。（野中委員）
- ・ 教養教育では、特にパブリックマインドを持たせることを重視したい。（宮原氏）
- ・ 国際社会に通用する人材の育成には、語学（特に普遍的な言語として英語）教育が必須。（野中委員）
- ・ 英語の必要性は高い。資格取得の有無にかかわらず、英語を始めとするグローバルゼーションの素養が必要。レベル別ではなく、入学時点での選別（英語能力を重視した選抜基準の設定等）を検討すべき。（猪口委員）
- ・ 英語は最低限必要。（吉田委員）

- 英語で教えることは必要。文献を指定し読ませ、かつ書かせること。同時に、日本語教育も重要である。日本人学生にも、海外から来る学生のためにも、きちんとした日本語を身につけさせるべきである。(原田委員)
- 目的意識を持って学習させること。また、それらをふまえたカリキュラム編成をすること。(五十嵐委員)

教育方法の特徴

【基本構想】

- 少人数制教育や地域ニーズに応じた実践的教育課程
- キャリア教育の充実やインターンシップの導入など、地域に根ざした職業教育の展開
- 社会人教育の充実、地域に開かれた大学

【意見の整理・方向性】

- 地域だけでなく、国際的視野に立った実践的教育課程の構築
- 実践的教育を目的とした少人数教育の実施
- キャリア教育の中での教養教育の位置づけと他との差別化
- 地域はもとより、世界に開かれた大学を目指すことが必要

【第 1 回懇談会での意見】

- ・教養教育のキャリア教育の中での位置づけを明確に。大きな意味でのキャリア意識の育成として重要である。(五十嵐委員)
- ・自分のアイデアを周りに説明し、皆の仕事として最後まで実行する、という訓練をさせる。(猪口委員)

その他**【基本構想】**

○県内の他の高等教育機関及び産業界との連携を重視すると共に、本県が抱える諸問題に対応するシンクタンク機能を有する大学を目指す。

【意見の整理・方向性】

- インターンシップ等による産業界との連携
- 県内大学の連携だけでなく、海外の大学も含めたアライアンス・ネットワークでの位置づけ・焦点化
- 県内大学とのコンソーシアム等の連携方策も重要
- 優秀な学生を集めるための、魅力的なコンセプト、大学の実績、メッセージを出していくことが立ち上がり時のポイント
そのために、首都圏を中心とした情報収集と発信ができるサテライトの整備が早急に必要

【第1回懇談会での意見】

- ・大学と産業界がどう交流を持つか。大学の魅力として高く評価される点の一つとして、就職の問題がある。日頃から、産業界とのパイプを築いていくことが重要。(井田氏)
- ・企業に歓迎される人材を育成しているという印象づけ、また、その実績を作っていくこと。開学前からの情報発信が必要。(猪口委員)
- ・企業が求める、熱い思い、こだわりをもった人材を育てて欲しい。また、基となる感度、好奇心を育てること。(宮原氏)
- ・インターンシップも特徴づけが必要。手を広げすぎると学生の意識も定まらない。(五十嵐委員)